

# 県内 食品産業人材育成継続へ

## 土佐 FBC 県などが事業費支援

県内の食品産業を担う人材を育成する高知大学の「土佐フードビジネススクリエーター(FBC)人材創出」事業が、国の補助金が終了する2013年度以降も継続されることになった。同大や県、地元の金融機関などが事業費を拠出する枠組

みをつくり、今後5年間で新たに200人規模のリーダーを養成する。同事業は国の補助金5千万円を受け、08年度にスタート。同大物部キャンパスで、食品製造・加工や品質管理、マーケティングなど経営学の講義、商品開発に必要な実験技術

の習得などを行ってきた。期間は1年制と2年制で3コースあり、12年度末までに、食品関連企業の社員や自治体職員、学生ら160人が受講修了する予定。13年度以降は受講科目を選択できるコースなどを新設。年間の事業費を約3300万円と想定し、支援団体との枠組みづくりを急いでいる。これまで無料だったが、受講料を年間3万〜4万円徴収するという。



29日には高知市内で5年間の事業を総括するシンポジウムを開催。高知大学の受田浩之副学長は「修了生による関連商品売上高など約3億円の経済効果を生んでいる」と振り返り、第2期となる事業推進で「県内の食品産業の裾野を広げる人材育成につなげたい」と意欲を示した。

土佐FBC事業の総括や第2期の内容について意見交換したシンポジウム  
(高知市の高知会館)

(岡林知永)